

## 日本助産学会ニュースレター

## 第23回ICM大会に参加して



名古屋市立大学看護短期大学部  
日本助産学会庶務担当理事 小木曾みよ子

雪化粧のグラウス・マウンテンを遠景に、桜（八重桜）咲き緑の多い春の気候のカナダ、ブリティッシュコロンビア州、バンクーバー市はぴったし「大会季節」であった。

「助産婦よ未来の鼓動を聴け」のテーマを掲げて開催された第23回ICM大会に世界の82ヶ国から2,500名の助産婦が参加し、日本からは約300名で、1位の英国の500名に次ぐ多数参加である。

学術発表は、口演321題、ポスター25題、フィルム20題で、日本からは口演20題、ポスター6題と多く発表された。このほか「助産学の分類」など8テーマのワークショップがおこなわれ、日本からの参加者の中からも英語での討論が可能な13人が推薦されて出席し各国の助産婦との意見交換が行なわれた。シドニー大会ではたしか口演5題だったことを思うと大変な差の進歩である。

5月9日～14日が大会、5月4日～6日はICM国際評議会、7日と8日はICM・WHO・ユニセフの共催による「母子の安全について」のワークショップが行なわれた。

国際評議会へは各加盟団体から2名の代表者が出席する。本学会からの代表は近藤理事長と小木曾、日本看護協会は前原前ICM会長と松本職能委員長（本会の副理事長）、日本助産婦会は多賀会長（本会の理事）と三井役員（本会の理事）とはからずも日本助産学会の理事が5人出席した。

議事は最初に示された項目だけでも36項目と膨大であり、3日間のほか5月7日の夕方にも行なわれた。

最初の日の4日は、朝8時から登録が開始

され、9時から時間厳守で開会された。議事の採決は、赤と緑のがきカードで、賛成-緑、反対-赤とし、重要事項の場合は、賛否・保留が数えられ民主的に進められた。

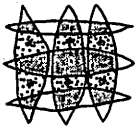
2日目の5月5日は、国際助産婦の日に当たったので、議長のキャロル・ハード会長の発議により出席者全員が拍手で祝い記念した。

第1日のはじめに、加盟各団体による助産婦に関する問題の報告の時間がとられた。3項目・2分間以内ということで、本学会からは近藤理事長が「看護制度が急速に大学制度に変わりつつあり、助産婦教育は基礎看護教育の中に包含するか、または基礎教育修了後専攻科または修士課程のいずれで行なうべきかが問題になっている。……看護婦人口が圧倒的に多くなかで、助産婦免許が吸収されるという危険がないよう提唱している。」という主旨の内容を報告した。

ICMは大変な財政困難な状況にあるが、「2000年までにすべての人々に安全な出産を」実現するための事業を進めるために、経費節減など克服するための方策が審議され、今後も引続いていく課題であることが実感された。

5月12日13:30から開催のスポンサーミッドワイフの集会へは近藤理事長が出席し、学会がスポンサーしたナイジェリアの助産婦Mrs. EKAETTES UMOHとも面談した。

国際評議会で活力の大半を使い、後半の大会中は気力低下の参加しかできなかったが、いろいろの場面で受けた「刺戟」をまだ完全に処理できずに、目の前の仕事に追われているこの頃である。



## I C M の 活 動

東京都立医療技術短期大学  
日本助産学会国際担当理事・副理事長 松本 八重子



国際助産婦連盟（ICM）定款（1990年10月改定）によれば、その目的を、

「世界の国々の母親と乳児およびその家族に提供されるケアの水準をたかめることを目指して、助産婦教育の進歩をはかり、助産の技と技術の知識を普及させる」としての実現のために、国際的組織として「各助産婦会とその国の政府との連携について、必要に応じて支援し、助言すること。母性ケアの提供をより進歩させ、助産婦が独自の権限を有する専門職者としてその役割を発展させる」としている。

上記の目的の達成と、その推進のためにICMは次のような権限を持つとしてその活動について9項目を挙げている。

1. 出版
2. 会議、研修会、セミナー、協議会等の開催
3. 会員団体間の相互訪問
4. 国際間の訪問団の組織
5. ICM大会の開催
6. 助産に関する情報の普及、交換のセンターとしての役割
7. 他の組織、個人の連盟活動への招聘
8. 他の組織、個人の連盟活動への参加の許可
9. 連盟の目的達成に必要なその他のすべての合法的活動

最近3年間（1990～1993）のICMの活動報告から主なものを挙げる。

### 1. 助産の正式な承認

1992年の世界保健会議の決議に助産の重要性が明示されると共に、看護および助産に関する世界的諮問委員会が設けられ、この委員会名に「助産」がはっきりと掲げられて、これらのことが助産の立場の著しい向上をしるした。

以来、ICM事務局長がこの「看護および助産に関する世界的諮問委員会」に招聘され、出席している。

### 2. 国際機関との協力

- ICMは、1957年以来国連との間に公式な非政府組織（NGO）としての地位を保ち続けており、世界保健機関（WHO）に対しては顧問の地位を保っている。
- WHOとUNICEFによるベビーフレンドリーホスピタル（赤ちゃんにやさしい病院；母乳栄養主義の病院）指定のための世界的基準の作成のためのソ連の会議で、アントンプソン会計担当理事はICMの代表として推進役となって活動した。
- WHOとの協力で進めてきた「母性の安全」運動と、神戸大会直前のワークショップの成果が発展途上国の助産婦の教育のための教育モジュールの開発につながった。
- 大会前ワークショップの実施とフォローアップ  
バンクーバーのテーマは「質のよいケアの実現に向けての評価の展開」
- 「2000年までに妊産婦死亡および罹病率を50%に減らす」ためのICMの貢献が認められ、国連人口基金から発展途上国の助産婦のバンクーバー大会前ワークショップへの出席のための資金援助がなされた。
- 国際産科婦人科学会、国際小児科学会等と「妊産婦と乳児のケアに関する十原則」を共同で作成できるか会合をもっている。
- 国際医療行動団との定期的会合によるこのフォーラムに看護および助産部門創設の準備
- 事務局長は、英国の小児保健研究・教育施設の客員講師およびダーラム大学の海外開発援助組織によるバングラディッシュの医学教育改善プロジェクトチームメンバーとして活動中

### 3. ICM代表の活動

いつでも、どこでも、国際的に助産が討議され、検討される際には、必ず見識ある助産婦がICMを適切に代表しなければならず、このことは最近特に重要になっている。

- WHO, UNICEF, FIGO, IAMANEH, 国連、フォード基金、各国政府職能団体等単独ないしは合同の集会、助産婦および助産婦学生の研究集会で、地域的にもアジア、アフリカを含む全世界におよんでいる。これらの各種会合に参加したICM代表からの報告がICMの国際活動の参考になっている。
- 最近WHOが世界中で看護および助産の資源配分の物差しとして用いる助産の分類と情報システム(データベース)の開発のための一連の会議を持つようになった。ここでICMが適切に発言して行くことが重要である。

### 4. 出版

ICM独自および他機関との協力による出版物

- ニュースレター(年間4回発行)  
助産婦個人および団体の国際的な助産の問題に関する情報源としての重みを増して来ている。
- その他、各種ワークショップ等の報告書、ICMの声明等  
本部には、助産、助産婦と女性および新生児の健康に関連する出版物や情報が毎年相当量送られて来ており、かなりの問い合わせもある。これらの情報が将来より有効に活用されるよう組織化の必要があるとしている。

### 5. マリーゴブラン記念賞の創設

1990年12月13日死去したマリーゴブラン前事務局長の追悼式を、多数の出席のもと1991年3月2日行った。

理事会はゴブラン家と共にマリーゴブラン記念賞を創設し、マリーゴブランの短かすぎる在任、しかし国際的な助産に対する顕著な貢献を記念することとした。

趣旨に賛同の会員およびその他の個人および団体からの寄付が寄せられた。

第1回の受賞者はカンボジアとガーナの助

産婦に、自国の助産に変化を起こせるよう学ぶために贈られた。

### 6. 会合

- 第23回大会(カナダ・バンクーバー市)
- 第24回大会(ノルウェー・オスロ市:1996年)、第25回大会(フィリピン・マニラ市:1999年)の予定
- 理事会(3年間に9回開催)
- 執行委員会(1992年12月スペイン・マドリッド市にて開催)
- 地域集会は世界各地で開催された。アジア太平洋地域では1992年3月オーストラリア・メルボルン市で開催された。 kongress に先立ってワークショップも開催された。地域集会は、同じ地域の似た状況の国々の助産婦が互いに交流することにより、問題を共有し、解決の道を探し易くすると共に、旅行や集会そのものにかかる費用も少なく済むなどのメリットがあるとして、ICMでは奨励している。

### 7. 国際助産婦の日

5月5日は、会員団体および助産婦にとって特別な日として定着してきている。

この日が国連によって指定されるためには、国連加盟国の提案と国連での採択が必要なので、ICM加盟団体が自国の政府にこのことについて働きかけることにより実現するようにしたい。

### 8. ICM結成75周年—国際助産婦の年

1994年を国際助産婦の年とし、各会員団体がこのことを記念して行事を計画されるよう本部は希望している。

資料;

- Constitution of The International Confederation of Midwives, 1990.
- Triennial Report 1990-1993, International Confederation of Midwives.



## 日本助産学会第23回ICMカナダツアーに参加して



助産院 ベビ-ヘルシ-美蕾 団長 瀬井 房子

5月9日からのICMがカナダで開催されるに当たって助産学会よりツアーを組み参加者を募集する事となり、国際委員の一人としてツアーリーダーでツアーに参加しないかと言うお話をいただいたのは昨年のはじめ頃だったでしょうか？

「ツアーリーダー？まあいいでしょう」軽い人間がこれまた軽い気持ちでお引き受けしてしまって「はた」と困ったことは、これが助産学会であったということでした。でもお引き受けしてしまったからには「ままよなんとかなるでしょう」とこれ又成り行き任せで出発、5月4日成田発、日程の関係や構成メンバーの居住地の問題などで事前の打ち合わせもおおざっぱ、結団式は成田でと思っていたのですが、これも一寸した手違いで飛行機に搭乗して初めての顔合わせ。それでも何とか無事、ロスアンジェルスに到着、理事長の近藤先生のご配慮で空港にはちゃんと出迎えもあり、ツアーコンダクターも付いてくださり、団長は何もすることなし。

ロスアンジェルス到着当日は急遽オプションツアーを組み、ユニバーサル映画の撮影所へ、しばし童心にかえって楽しい一時を過ごすことが出来ましたし、この事が団員のコミニケーションをぐんと身近なものへと近づけてくれたように思います。

翌日より2日間はナンシー・ボウル女史のご案内でパーシングセンター見学、助産婦学校（ロスアンジェルス私立大学）の見学、助産婦主導のマタニティクリニック見学等々非常に有意義な勉強をさせていただきましたが、それ以上にサンタモニカの海岸や世界的に有名なGetty美術館へご案内いただいたことは、日常生活を忘れて私たちの心を恍惚の世界に導いてくださり、特にGetty美術館の庭でいただいた昼食はこれ又現実を離れた夢のような世界、または一時映画の主人公にでもなったような素敵な気分を味あわせていた

できました。またこの美術館に収集された絵画、コレクションの数々はまるで「ベルサイユの薔薇」の世界でした。こうして心の栄養を充分につけていただいてカナダ入りした私たち一行は、5月というのに綿帽子をかぶったロッキー山脈のごくごく一部、一昨年冬のオリンピックでおなじみのカルガリーを経て、バンフ国立公園で英気を養いバンクーバー入りをしました。その後の5日間は、ICM開会式を神戸とは又違った感動のもとに迎え、それぞれが有意義な勉強をし実り多き収穫を各分野に持ち帰られたことと思います。

このツアーを通じて団員の方々がそれぞれ自立されており団長とは名ばかりでしたが、全員そろって無事帰国できましたことや、団員の気持ちをぱっとひとまとめにして下さるようなナンシー・ボウル女史の心のこもった歓迎の仕方と案内の仕方など、数えれば数限りなく湧き出るようなツアーでした。時々夢にでてくるのがカナダのインディアンの釣り橋に「残さないでよ」とたたずむ一人の女性の姿ですが、一人の落伍者もなく楽しい旅行が出来ましたことを団員の方々を始め、多くの関係者に感謝します。

私個人の感想を一言つけ加えさせていただけますならば、ブリティッシュ・コロンビアの中のビクトリア市の中世的な建物や、キャプテンクックが最初に見つけたインディアンの地に建つ世界一高いトーンポールなどと共に、個人の持ち物とはいえ一般に公開されているブッチャードガーデンの光景は、木々の一本一本、花一輪にいたるまで私を虜にできて、帰国後日が経つにつれ鮮明さを増して私の魂を揺さぶっている始末です。出来ることならもう一度出かけてみたい。夢の島だったことを書き添えさせていただき、報告とさせていただきます。

## 大学院修士課程における助産婦教育



— 南カリフォルニア大学視察報告 —



東京医科歯科大学保健衛生学科 松岡 恵

この5月、ICM大会参加に先駆けて、日本助産学会の会員の方々とともに南カリフォルニア大学とその関連病院の視察をする機会をえたので報告したい。

南カリフォルニア大学は、カリフォルニア州ロスアンジェルスにある私大の総合大学だ。4つの関連病院をもち、総病床数は2000床、そのうち女性病院は312床ある。妊婦ははじめに、統合母子評価センター（CMEC）で健診をうけ、正常な場合は地域病院に振り分け、異常がある場合には大学の女性病院で健診をつづける。この病院には、社会保障の対象となる貧しい人が多く集まる。そのため、定期的な妊婦健診を受ける人は少なく、飛び込みで出産になる場合も多いそうだ。

ロスアンジェルス市は米国で最も出産数が多い市で、その中でも南カリフォルニア大学の女性病院は、年間4000件の出産があり、ロスアンジェルス市で最も出産数が多いそうだ。

女性病院では、正常産のみを扱う正常パースセンターとハイリスク病棟が完全に分けられ、正常パースセンターでは、分娩誘発、会陰切開、麻酔を行わない自然分娩が助産婦の手で行われている。このフロアには、家族も一緒にいることができる分娩室が5部屋、4人部屋の産褥室が3部屋あり、家族的な雰囲気を感じている。そして、ここには助産婦、産科看護婦、小児科看護婦が勤務し、医師はいない。それに対し、異常がある場合には、ハイリスク病棟で医師が最新の医療を行っている。ここには分娩室が5部屋手術室が2部屋ある。

こうした、助産婦が医師の手を離れ、正常出産を独立して行うフロアをつくったのは、1981年のことで、その年から南カリフォルニア大学では修士課程の看護助産婦養成コースが開始したそうだ。

この看護助産婦コースは、修士課程の一環

としてあるので、卒業時には看護学修士と臨床看護助産婦（CNM）の資格がとれることになる。このCNMは、カリフォルニア州ではナースプラクティショナーの一つとして位置づけられている。入学資格は、学士であり、看護婦としての臨床経験が2年以上（その内産科看護婦として1年以上）となっている。卒業資格には40単位必要で、その内の24単位は看護助産婦コースに関する単位、16単位が看護学修士に関する単位だ。修士課程の16単位には、理論、研究、薬学、専門的役割という柱がある。ここで、薬学が大きな比重を占めているのは、ナースプラクティショナーであるCNMが、薬品の処方を経験で認められているためだ。

学生は9月に入学し、1年目の12月までの4カ月は、看護学修士の16単位に関して学ぶ。年があけて1月から12月までの1年間はCNMに関する24単位を授得し、すぐにCNMの国家試験を受験する。その後、2年目の1月から卒業までの半年間に看護学修士に関する16単位の残りを取得し卒業になる。このコースでは、修士論文を作成することは選択で、卒業の必須単位ではない。しかし、将来、博士課程進学を目指す学生は、追加単位として修士論文の単位を選択し取得することになる。

このように、南カリフォルニア大学では、従来あった病院内で行う助産婦養成コースの単位を大学院の単位の一部に組み込み、それにナースプラクティショナーに要求される単位や、研究者として要求される単位を付加して修士課程のカリキュラムを組んである。

この大学院修士課程のCNM養成コースは、4年生大学の教員不足と研究者養成を目的とした忙しい大学院カリキュラム、出産数の減少に伴う実習病院の確保ができないなどの理由から、助産コース開設に踏み切れない私には非常に示唆に富むコースだった。つまり、現在、専門学校で行っている助産婦教育をそ

のまま活かしながら、助産婦資格を持つ看護学修士を教育する可能性を示唆している。助産学以外の看護の領域では、看護協会が提唱するCNS（クリニカルナーススペシャリスト）の養成を大学院修士課程で行う可能性を考えている。この4月に開講した東京医科歯科大学大学院の修士課程もCNSに対応できるカリキュラムを目指している。こうした動きの中で、助産婦が看護の基礎教育でなく、専門教育であることを目指すには大学院教育に位置づけることが望ましいと思う。現在、増え続ける国公立の4年生大学が抱える制約の中で、最も大きな問題は、大学、大学院教育で助産婦教育を行える人員が非常に少ない

という問題だ。こうした現状の中で、専門教育としての助産婦教育を行いつつ、大学、大学院教育を行える人材を育て、研究者を育てるには、南カ大学が行っているような、専門学校との有機的な連携が有効であろう。具体的には、専門学校での単位を大学院のCNSとしての単位に読み換えることや、大学と専門学校の教師間の連携をとり、提携専門学校、提携大学院という関係をつくることも一つの方法ではないだろうか。

この視察は、自前で助産婦を養成できない大学教員である私に希望を与えてくれた旅だった。

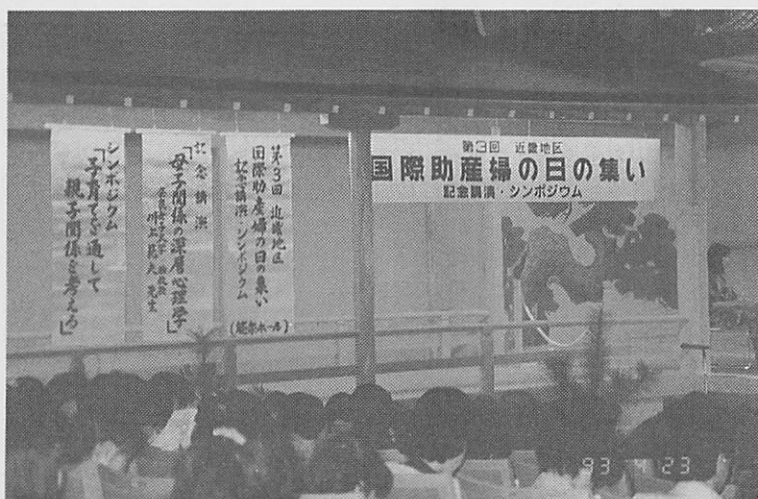
### ◆平成5年 第3回国際助産婦の日の記念行事が各地で開催される◆

#### 第3回 近畿地区国際助産婦の日の集い 記念講演・シンポジウム

日時 1993年4月23日(金) 13:20～16:00  
場所 奈良県新公会堂 能楽ホール  
奈良市春日野町101番地 (☎0742-27-2630)  
主催 近畿地区(社)日本助産婦会・近畿地区日本助産学会  
後援 奈良県・奈良県看護協会  
協賛 明治乳業・花王・大塚製薬

#### — 次 第 —

12:50 開場  
13:15 オリエンテーション  
13:20 開会  
13:30 特別講演「母子関係の深層心理学」  
奈良女子大学文学部 助教授 川上 範夫  
14:30 休憩  
14:40 シンポジウム  
テーマ「子育てを通して親子関係を考える」  
座長 桂 良太郎(奈良大学)  
宮田 英子(奈良医大附属看護専門学校)  
シンポジスト  
・父親の立場から Jhon Howard Thomas  
・母親の立場から 谷口 真由美  
・助産婦の立場から 米田 ますみ(高田市立病院)  
16:00 閉会



参加費 500円(但し、学生のみ無料)  
一般の方は往復ハガキにて下記まで申し込み下さい。

〒634 橿原市内膳町2-2-3  
助産婦会奈良県支部 森岡エイ子

問い合わせ先

〒634 橿原市内膳町2-2-3  
森岡エイ子 (☎07442-2-3967)

又は

〒634 橿原市四条町840  
奈良県立医科大学附属看護専門学校助産学科  
宮田 英子 (☎0744-2-3051 内2358)

第3回目の近畿地区国際助産婦の日の集いが京都、大阪に続き奈良で開催されました。

講演は「母子関係の深層心理学」というテーマで、心理学者の川上範夫先生、シンポジストは国際助産婦の日にふさわしく日本での夫立ち合い分娩を経験された Jhon Howard Thomas さん、助産院での継続した人間味あふれる出産、ケアを経験された谷口真由美さん、勤務助産婦の米田ますみさんと、父親、母親、助産婦それぞれの立場より意見をうかがい、お産を通じた子育て、親子のつながりを会場も交えて討論されました。

奈良公園、能舞台という厳かな場所で、  
和やかな雰囲気での心を通った子育て、子育てを考えるひとときでした。  
参加者は453名と盛会でした。



(文責 宮田 英子)

『国際助産婦の日』愛知県第二回集會  
ご 案 内

## 愛知県第二回集會

メインテーマ 『私のお産を語ろうきゃーも』

下記の通り開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。

主 催 『国際助産婦の日』

愛知県第二回集會実行委員会

実行委員長 橋戸 奈津子

社団法人 日本助産婦会愛知県支部

社団法人 愛知県看護協会助産婦部会

日本助産学会

愛知県助産婦教育連絡協議会

1. 期 日 平成5年4月29日(金) 12時00分～16時00分
2. 会 場 名古屋市公会堂 第7集会室
3. プログラム

基調講演 『自立の歩みと子育て』  
演者 伊藤 康子 中京女子大学教授

パネルディスカッション 『私のお産を語ろうきゃーも』  
カッションテーマ

座長 大林 康子

パネリスト 朝日喜代子 「戦中戦後を通しての私のお産」

浜口 緑 「私のお産」

水野 裕美 「私の楽しい水中出産」

伊藤 規子 「私のお産の体験」

鈴木 秀範 「出産立合いを終えて」


12:00	開場・受付
12:40～12:45	オリエンテーション
12:45～13:00	実行委員長挨拶・趣意書説明
13:00～14:00	基調講演・質疑応答
14:00～14:10	休憩
14:10～16:00	パネルディスカッション
16:00	閉会



4. 集會参加費について 一般の方は、無料。(ただし、会員1000円・学生100円)
5. 講師紹介 東京大学文学部国史科卒 現在、中京女子大学教授、著書には「愛知の女性史」「女性史入門」等、自分の運命をひらく女性史学にふみこむための入門書がある。
6. 開催状況 参加者数164名(一般女性48名、助産婦84名、助産婦学生40名)  
集會は、第1回集會より50人余多い参加者より盛会に開會された。講演では女性の自立の歴史について考え、名古屋弁のテーマで親しみを強調したシンポジウムでは、30才代・60才代の出産経験者、水中出産者、夫立会の夫の経験等からの出産体験談や感想をきき、参加者との意見交換が活発に行なわれ有意義な1日であった。なお、会場にはポスターを張りめぐらし、雰囲気をつくり、参加者にはリーフレットの配布を行なった。(文責 小木曾みよ子)



# 第 3 回 国際 助産 婦 の 日



西暦2000年までに世界のすべての人々に安全な出産と健康な子供の発育を保障するための活動を展開しよう

◆ **講演「胎児からの子育て」**  
—子育ての原点を見直そう—

愛知工業大学教授 大島清先生  
(元京都大学霊長類研究所教授)

◆ **母子相談、女性の健康相談**

相談コーナーを設けています 妊娠中、産後、子育て、その他、自分の健康で気になっていること、悩んでいることをお気軽に御相談下さい。

◆ **世界の母子への援助募金**：ユニセフ、海外医療援助活動への支援

◆ **日時**：平成5年5月29日(土)

受付 13:00～

講演 13:30～15:30

相談 15:30～16:30

◆ **場所**：郷土文化会館 4階大会議室

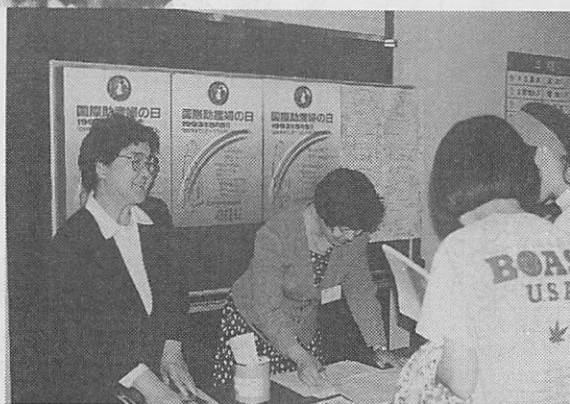
徳島市藍場町2丁目14番地 TEL(0886)22-8121(代)

♥ **入場無料**

※先着200名様に粗品進呈します。

※育児用品等の展示及び保育室もあります。

主催 徳島県助産婦会、日本助産学会  
徳島県看護協会、  
ICM(国際助産婦連盟)



#### ▼大島 清先生 プロフィール

昭和2年生まれ。呉市出身。東京大学医学部医学科卒業。

現在 愛知工業大学教授。(元京都大学霊長類研究所教授)

専攻：生殖生理学。サルの生態学の研究や人の子育て等の研究で有名。NHKテレビ放映中の「命かがやけ地球」に出演し、地球環境問題にも造詣が深い。各地での公演等御活躍中。

著書「人間の生と性」

「サルとヒトのセクソロジー」

「サルの性行動」

「胎児からの子育て」

- ▼後援 徳島県、徳島市、徳島県母性衛生学会、徳島県小児保健学会、徳島県女性協議会、徳島市保母会、徳島県私立保育園連盟、徳島県国公立幼稚園長会、株式会社大塚製薬工場徳島支店、明治乳業株式会社徳島出張所、森永乳業株式会社徳島営業所、雪印乳業株式会社徳島営業所、ワイス・エーザイ株式会社広島営業所、四国花王販売株式会社徳島支店、朝日新聞社徳島支局、徳島新聞社、毎日新聞社徳島支局、読売新聞社徳島支局、NHK徳島放送局、四国放送株式会社

参加者 589名(内訳 妊婦151名、保育関係66名、一般111名、助産婦78名、看護婦26名、保健婦11名、学生146名)と盛会で、ユニセフ募金も31,312円の募金額があり、世界の母子への援助として送金致します。

(文責 岡部佐千子)



## 「国際助産婦の日」記念事業

目的 「国際助産婦の日」記念行事として助産婦による母性各期の相談を行うことにより、健全な家庭・親・児童などの育成と人づくりを支援する。

主催 社団法人石川県看護協会  
 実施 (社)石川県看護協会助産婦職能  
 日本助産婦会石川県支部・日本助産学会  
 テーマ 「性を通してより幸せに生きる」  
 — 21世紀の健全な母性・父性の発達を支援する —  
 と き 平成5年4月24日(土) 13:00～16:00  
 ところ 石川県教育会館  
 石川県金沢市香林坊1丁目2-40 TEL 0762-22-1241  
 内 容 〔お話と相談、沐浴実演、乳房ケア、VTR上演など〕

- \* さあノパパと一緒に沐浴しましょう
- \* おいしい母乳を楽しく与えるために  
トラブルはありませんか?
- \* 子育ての楽しさ・苦しさ  
おばあちゃんの子育てと私の子育て
- \* 私の避妊は大丈夫?
- \* あなたの性は生き生きしていますか?  
ボクと私の体の変化、ヤングの性、中高年の性、閉経に向けて
- \* 助産婦になりたい人のために  
助産婦って何をする人?



- ※ パパママ、ボクも私も、若いあなたも、おじいちゃんも、おばあちゃんもみんなご一緒に  
 ちょっと気軽にのぞいてみませんか。入場は無料です。  
 ※ 会場には駐車場がございませんので、近くの有料駐車場をご利用下さい。

### <プログラム>

大会議室	沐浴コーナ	13:00～16:00 沐浴実演、赤ちゃんの抱き方、おむつの交換など
	育児コーナ	13:00～16:00 乳房ケア、楽しい子育て、母乳と育児など
和 室	セクシャリティーコーナ	13:00～16:00 Youngの心と体のQ&A、結婚前のあなたに 妊娠中の性、産後の性、更年期の性など
	助産婦コーナ	13:00～16:00 助産婦って何をする人? 助産婦をめざす人へなど
ロ ビ ー	ビデオコーナ	13:00～16:00 胎児期からはじまる心豊かな子育て(25分) 生命創造(40分) 第22回国際助産婦連盟学術大会(神戸)(20分) ストップ ザ エイズ(20分)

## 第8回 日本助産学会学術集会開催のご案内・演題募集

第8回 日本助産学会学術集会はメインテーマ「国際化社会と助産婦」のもとに、下記のとおり開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

会長 藤田 八千代

1. 期 日 1994年3月19日(土曜日) 9:30~16:30
2. 会 場 横浜市市民文化会館 関内ホール 横浜市中区住吉町4-42 ☎045-662-1221
3. プログラム \*一般演題 口演 示説(ポスターセッション)  
\*会長講演 \*シンポジウム 等 \*日本助産学会総会

### 4. 演題募集要項

- 1) 申し込み資格 : 共同研究者も含めて全て会員に限られております。
- 2) 申し込み先 : 〒235 横浜市磯子区東町6番13号  
神奈川県衛生看護専門学校(第8回 日本助産学会事務局)  
☎045-753-2401 FAX045-753-2403
- 3) 申し込み方法 : 同封の「第8回 日本助産学会学術集会 演題申込書」に所定の事項を記入し学会事務局に郵送してください。  
締 切 : 1993年7月30日(金) <当日消印有効>
- 4) 原稿提出と採否について : 申し込まれた方には記入要項をお送り致しますので、要項に添って記入し上記事務局に送付してください。  
締 切 : 1993年9月30日(木) <必着>  
採否については演題選定委員が原稿内容を検討し、通知致します。
- 5) 発表形式 : 口 演……口頭で発表を行い、座長の司会で質疑応答がなされます。  
スライドは使用できます。発表時間 約10分  
示 説……研究内容を掲示板を用いて発表します。  
研究者を囲んで、直接自由討論ができます。  
スライド、VTRは使用できません。

### 5. 学術集会参加・懇親会参加・昼食希望について

- 1) 参加費 : 学術集会参加費 7,000円(1994年1月20日以降は8,000円)  
懇親会会費 8,000円(会場は横浜の名所・中華街を予定しております)
- 2) 学術集会参加・懇親会参加申し込み方法 : 同封の振込み用紙にて申し込んで下さい。

<学術集会参加費・懇親会会費・昼食代振込先>

<入会手続き・年会費振込み先>

郵便振替口座 横浜 0-73285  
口座名称 第8回日本助産学会学術集会

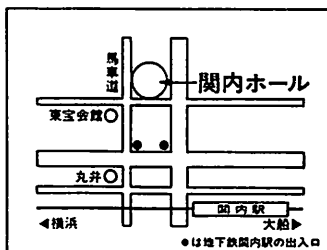
〒160 東京都千代田区富士見1-8-21  
日本助産学会事務局  
☎03-3221-1020

- ・郵便振替用紙は、一人で1枚を使用して申し込んで下さい。
- ・1枚で2人以上の申し込みをされると、事務局で参加者の確認ができなくなります。
- ・会員以外の方のお申し込みも歓迎いたします。

参加申し込みをされた方には、事前に「講演集」を送付する予定です。

- 3) 昼食申し込み : ご希望の方は予め学会参加と同時に申し込んで下さい。  
一食1,200円です。昼食券は事前にお送りします。

### 6. 会場道順



#### (交通案内)

- 市営地下鉄 関内駅馬車道方面下車徒歩3分  
J R 関内駅北口下車徒歩5分  
J R・東横線 桜木町駅下車徒歩7分

## 第7回日本助産学会総会・評議委員会報告

第7回日本助産学会総会並びに学術集会は、1993年3月7日(日)九州厚生年金会館年金ホールにおいて、500余名の参加者により盛会に開催されました。総会は12時30分より当日参加会員中の98名の出席のもとに、近藤理事長の挨拶により開会されました。

総会における報告・審議事項の要旨を報告します。

## 1. 平成4年度会員数について(2月末の状況)

個人会員：899名

機関会員：10機関

## 2. 平成4年度収支決算

収入8,852,016円(繰越金、会費、雑収入ほか)

支出6,407,855円(会議費、事業費、事務費ほか)

繰越金2,444,171円

## 3. 理事会報告

臨時、書面理事会を併せて6回開催され、事業推進、ICM国際評議委員会出席者、学術集会準備等の審議や、入会申し込み者の審査を行った。

本年は、役員一同任期満了に伴い選挙を実施した。

## 4. 庶務報告

会務に関する事項-事務所移転及び選挙管理委員会について検討した。

平成4年1月11日山路監事が逝去され、哀悼の意を表した。

平成4年5月15日全国助産婦教育協議会総会へ、近藤理事長が来賓として出席し祝辞を述べた。

## 5. 活動報告

渉外委員会：個人会員、機関会員の増加対策として、全国助産婦教育協議会・教務主任会や全国の助産婦教育機関宛に、入会勧誘と学会誌の購入依頼などを行った。  
平成4年1月11日山路監事が逝去され、近藤理事長、宮里理事、小木管理事で協議して対応した。

平成4年2月24日水野正彦東大名誉教授が逝去され、葬儀に際し弔電を送り弔意を表した。

会則委員会：日本助産学会評議員選出に関する規定の検討を行い、「会員の選挙に基づく方法」に改正した。平成4年10月17日の理事会決定により、評議員の選出を新規定にて実施することになった。

広報委員会：国際助産婦の日のポスターを日本看護協会、日本助産婦会、日本助産学会で検討して作成し、関連機関に発送した。

国際助産婦の日のリーフレットを両面刷りにして、日本の助産婦活動をアピールし、教育機関や国際助産婦の記念行事開催地に発送した。

国際助産婦の記念行事開催場所へポスター・リーフレットを送付した。

ニュースレターの作成-1992. 7. 3に第8号、1992. 10. 22に第9号、1993. 2. 15に第10号を発行し送付した。

国際委員会：ICM学会ツアーを企画し、参加予定者は25名である。

発展途上国助産婦のICM参加費用、ICMスポンサーミッドワイフ(国際募金)を設置して推進した結果、目標額の募金が得られた。

ICMからの関連事項の処理や、情報を会員に提供した。

編集委員会：学会誌第6巻1号の編集発行した。

学術振興委員会：平成4年11月14日(土)に東北大学医療技術短期大学部において、ワークショップを開催した。テーマ「助産学研究の実際」、研究領域(4領域)

業務・教育検討委員会：「助産学会として取り組む業務・教育の課題について」検討し、報告書を提出した。

報告書の骨子は、1.助産学教育の検討課題、2.助産婦業務の検討課題、3.制度からみた課題である。

以上の他、第7回助産学会学術集会準備状況が報告された。

#### 6. 審議事項

##### 1) 平成5年度事業計画

- (1) 第8回学術集会開催
- (2) 学会誌・ニュースレターの発行
- (3) 助産学に関する研究会開催
- (4) 助産婦の業務・教育についての検討研究
- (5) 国際助産婦の日に関する事業の実施
- (6) 国際助産婦連盟及び関連団体との交流
- (7) 日本学術会議への学術研究団体登録
- (8) 学会員名簿の発行
- (9) 運営に関する会議開催（総会1回、評議員会1回、理事会5回）

上記について、1事項毎に審議採決し、提案通り決議された。

2) 事業計画に引続き平成5年度の収支予算案が審議され決議された。

3) 次期評議員、役員が紹介され承認された。

引き続き、第8回学術集会会長藤田八千代神奈川県立衛生短期大学教授から、横浜市における来年度学術集会の紹介と参加案内の挨拶があった。

次に第9回学術集会会長に決定した佐々木敦子信州大学医療技術短期大学部教授を近藤理事長より紹介された。

### 第7回日本助産学会評議委員会開催報告

1993年3月6日(土)九州厚生年金会館、周防の間において、出席20名、委任状12名、により開催された。日本助産学会評議員選出に関する規定に基づき、平成4年12月に選挙を行った結果、36名の評議員が選出された。また同会場に於て、役員を選出が行われ、選出された役員を、総会で承認を受ける予定である。総会提出事項の審議と、第9回学術集会会長の選出が行われた。

(庶務担当理事 小木曾・文責 平澤)

### ICM スポンサーミッドワイフ(国際基金)募金の報告

会員の皆様のご協力により、前回ニュースレター掲載者64名、251,000円と下記54名の方々より217,000円、計118名より468,000円の募金を戴きました。早速ICMに1名分357,760円+手数料6,500円送金致しました。

日本助産学会からの国際基金によりナイジェリアのMrs. EKAETTES UMOH助産婦(セントメアリーズ病院勤務)が参加され、皆々様の御厚意に心より感謝を致しておりました。

尚、残金103,740円は次回にむけて積立てましたので御報告致します。

牧 京子	村田千代子	松尾 文美	保谷ハルエ
中島知我子	塩飽 季恵	高見沢しま子	羽成美知代
藤島 輝子	石山 好子	高田 昌代	板倉千栄子
賀久 はつ	岩尾 啓子	道崎真理子	島尻 貞子
石塚 和子	伊藤千栄子	高橋 弘子	内藤 洋子
川原 淳子	堀内 成子	橋本 綾子	若松かをい

坂井 明美	島田 啓子	田淵 紀子	光田すみ子
佐々木和子	森 洋子	岡田 幸子	八幡 佳子
永見 桂	水谷喜代子	吉田 恵美	内山 和美
松岡 恵	大野由布子	岸 英子	松尾 寿子
大川 洋子	川中 洋子	河相 佳子	谷口 通英
芳倉 弘子	高橋 弘枝	橋本 雅子	清水 幸子
大月恵理子	新道 幸恵	藤林 國恵	久保田くに子
朝長まり子	寺田 眞廣		

### 第6回 ワークショップのご案内

日本助産学会理事長 近藤 潤子  
 学術振興委員長 竹内美恵子

平成5年度、第6回のワークショップの開催は下記の日程で開催準備を勧めております。詳細は、9月上旬に会員の皆様にご案内を致します。多数の方々のご参加をお待ちいたしております。

#### 記

ワークショップテーマ 助産学研究の課題を探る  
 講演並びにワークショップ

日 程 平成5年11月27日(土) 9時～16時  
 場 所 高知女子大学 高知市永国寺町5の15

### ◆全国助産婦学校協議会・日本助産学会事務員の変更のお知らせ

\*平成5年6月1日より下記の方々が事務局事務員として採用されました。

福地 彰子  
 高田 恵美

勤務時間：午前10時～午後4時

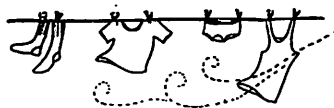
原則として週5日、月～金曜日迄とするが、時に週4日として週1日事務局を閉めることがあります。尚、4月より採用された澤田さんは6月10日で退職されました。

\*事務局が平成4年6月より現住所に移転して、1年経過しておりますが、まだ旧住所の日本母性衛生研究会の方に問い合わせを致し、先方に迷惑をかけている方がいると伺いました。事務局は下記ですので誤りのないように願います。

住所：〒102 東京都千代田区富士見1丁目8番21号  
 東京都助産婦会館内  
 日本助産学会

電話： 03-3221-1020

FAX：03-3221-0417



### 日本助産学会の理解と入会員の勧め

日本助産学会は、助産学に関する研究の推進・知識の普及により助産学の発展をはかり、我が国の母子保健の向上に寄与し、ひいては人類の福祉に資することを目的に1986年に発足しました。1989年6月にはICMにも加盟致し、現在日本学術会議への学術研究団体として登録手続中の学会です。主な事業は 1. 学術集会の開催、2. 学会誌等の発行、3. その他必要と認める事業を行っております。現在約900名の会員で構成しておりますが、会員の皆様のお近くに助産婦の免許を有して本学会の目的を理解し、助産学に関する研究に関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、会員の参加をお勧め下さい。(今回は会員勧誘のためにニュースレターNo.11号を2部送付致しますので、1部は案内用に御利用下さい)

尚、日本助産婦会と混同されている方がおりますが、日本助産婦会は財団法人として法人化された組織で、本会とは異なる機関ですので御承知おき下さい。

### 事務局だより

- \* 3月に総会が終わり、新年度の事業計画に即して活動が開始されました。6月より新しい事務の方々も就任されましたので、事務が軌道にのるまでの間、会員の皆様のご協力を宜しくお願い致します。
- \* 助産学会主催のICM大会ツアーに参加し、大会参加に併せて米国の助産婦活動や教育に関しての視察をされた方は、多くの学びを得たことでしょう。是非見学され感じたことを全国の会員の皆様に紹介して下さい。特別記事をお待致しております。
- \* 第8回日本助産学会学術集会の演題が募集されております。日頃の研究をまとめて、ふるって応募して下さい。
- \* 1994年の国際助産婦の日のポスターは、デザインを変えたいと思います。イラストの得意な方は、ぜひアイデアを提供して下さい。





# 日本助産学会運営及び事業推進表

1993. 4～1996. 3

役 割	担当理事氏名	幹事・委員氏名及び所属
総 括	近 藤 潤 子	
庶 務	小木曾 みよ子	幹事 鈴木 和 代 名古屋大学医療技術短期大学部
会 計	宮 里 和 子	幹事 岩 沢 和 子 国立公衆衛生院
渉 外	多 賀 琳 子	
会 則	藤 田 八千代	(小木曾みよ子)
広 報	平 澤 美恵子	小田切 房 子 埼玉県立衛生短期大学 兵 頭 慶 子 厚生省看護研修研究センター
国 際	松 本 八重子	加 納 尚 美 聖路加看護大学 瀬 井 房 子 助産院ベビ-ヘルシ-美蕾 横 尾 京 子 広島大学医学部保健学科
編 集	青 木 康 子	高 橋 弘 子 厚生省看護研修研究センター 水 谷 喜代子 東京大学医学部附属助産婦学校 森 明 子 聖路加看護大学
学 術 振 興	竹 内 美恵子	岸 田 佐 智 高知女子大学 新 道 幸 恵 神戸大学医学部附属病院 塩 野 悦 子 聖路加看護大学
業 務・教 育	三 井 政 子	内 山 和 美 聖隷学園浜松衛生短期大学 我部山 キヨ子 京都大学医療技術短期大学部 長 川 トミエ 国立名古屋病院附属看護助産学校
日 本 学 術 会 議 登 録	宮 里 和 子	
学 術 集 会 会 長	第8回 藤田八千代 第9回 佐々木敦子	1993. 4 ～ 1994. 3 1994. 4 ～ 1995. 3

(1993. 5)

東 海 ・ 北 陸	内山 和美	聖隷学園浜松衛生短期大学 0534-36-5312 〒433 静岡県浜松市三方原 3453
	小木曾みよ子	名古屋市立大学看護短期大学部 052-851-5511 〒467 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1
	坂井 明美	金沢大学医療技術短期大学部 0762-22-2211 〒920 石川県金沢市小立野 5-11-80
	長川トミエ	国立名古屋病院附属看護助産学校 052-951-1111 〒460 愛知県名古屋市中区三の丸 4-1-1
	三井 政子	岐阜大学医療技術短期大学部 0582-62-1428 〒500 岐阜県岐阜市北野町 70-1
近    畿	石塚 和子	石塚助産院 0745-73-3910・3831 〒639-02 奈良県北葛城郡上牧町桜ヶ丘 3-25-9
	岡本喜代子	大阪府立助産婦学院 0725-56-2111 〒590-02 大阪府和泉市室堂町 840
	多賀 琳子	母子保健研修センター-助産婦学校 03-3262-9953 〒102 東京都千代田区富士見 1-8-21
	立山サナミ	兵庫県立総合衛生学院 078-733-6611 〒653 兵庫県神戸市長田区海運町 7-4-13
	正木嘉代子	正木助産院 06-692-0015 〒558 大阪府大阪市住吉区山之内 1-14-13
中 国 ・ 四 国	宮中 文子	京都府立医科大学附属看護専門学校 075-212-5450 〒602 京都府京都市上京区清和院寺町東入る中御堂町 410
	岸 英子	山口大学医療技術短期大学部 0836-22-2821 〒755 山口県宇部市小串 1144
	竹内美恵子	徳島大学医療技術短期大学部 0886-31-3111 〒770 徳島県徳島市蔵本町 2-50
	吐山ムツ子	新見女子短期大学(非常勤) 〒710 岡山県倉敷市徳芳 1215-100 0864-62-2648
	九 州 ・ 沖 縄	浅生 慶子
賀久 はつ		むなかた助産院 0940-36-1131 〒811-34 福岡県宗像市日ノ里 1-1-12
宮崎 文子		福岡県立看護専門学校 092-923-2036 〒818-01 福岡県太宰府市向佐野 22
若松カヲイ		鹿児島大学医療技術短期大学部 0992-75-6790 〒890 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1

\* 選出地区別 アイウエオ順  
現職が非常勤の住所は自宅の所在地・〒・電話番号

(1993. 4)

日本助産学会評議員名簿 (1993. 4 ~ 1996. 3)

北海道	荒田 恵子	北海道立羽幌病院 0146-2-1276 〒078-41 北海道苫小前郡羽幌町 94
	伊藤 千栄子	北海道立衛生学院 011-611-0291 〒060 北海道札幌市中央区南二条西 15 丁目
東北	加藤 百合子	秋田県立衛生看護学院 0188-32-6169 〒010 秋田県秋田市千秋久保田町 6-10
	佐々木 和子	国立仙台病院附属看護助産学校 022-293-1111 〒983 宮城県仙台市宮城野区宮城野 2-8-8
	早坂 一子	福島県立総合衛生学院 0245-21-1683 〒960 福島県福島市渡利字中角 61
関東甲信越	青木 康子	東京都立医療技術短期大学 03-3819-1211 〒116 東京都荒川区東尾久 7-2-10
	板倉 千栄子	千葉大学医学部附属助産婦学校 043-222-7171 〒260 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1
	佐々木 敦子	信州大学医療技術短期大学部 0263-35-4600 〒390 長野県松本市旭 3-1-1
	藤田 八千代	東邦大学医療短期大学部 (非常勤) 〒143 神奈川県横浜市神奈川区神大寺 4-6-1 045-481-3476
	宮里 和子	順天堂医療短期大学 0473-50-4245 〒279 千葉県浦安市高洲 2-2
	村山 郁子	新潟大学医療技術短期大学部 (非常勤) 〒950-01 新潟県中蒲原郡亀田町西町 4-5-24 025-381-3679
	加藤 尚美	杏林大学保健学部 0422-47-5511 〒181 東京都三鷹市新川 6-20-2
	近藤 潤子	札幌医科大学保健医療学部 011-611-2111 〒060 北海道札幌市中央区南一条西 17 丁目
	菅沼ひろ子	聖母病院 03-3951-1111 〒161 東京都新宿区中落合 2-5-1
	内藤 和子	〒112 東京都文京区千石 4-14-401 03-3941-6675
東京	平澤美恵子	日本赤十字看護大学 03-3409-0186 〒150 東京都渋谷区広尾 4-1-3
	松岡 恵	東京医科歯科大学医学部保健衛生学科 03-3813-6111 〒113 東京都文京区湯島 1-5-45
	松本八重子	東京都立医療技術短期大学 03-3819-1211 〒118 東京都荒川区東尾久 7-2-10

# 日本助産学会役員名簿

1993. 4 ~ 1996. 3

理事長	近藤潤子	札幌医科大学健康医療学部
副理事長	松本八重子	東京都立医療技術短期大学
理事	青木康子	東京都立医療技術短期大学
理事	小木曾みよ子	名古屋市立大学看護短期大学部
理事	多賀琳子	母子保健センター助産婦学校
理事	竹内美恵子	徳島大学医療技術短期大学部
理事	平澤美恵子	日本赤十字看護大学
理事	藤田八千代	東邦大学医療短期大学（非常勤）
理事	三井政子	岐阜大学医療技術短期大学部
理事	官里和子	順天堂医療短期大学
監事	浅生慶子	九州大学医療技術短期大学部
監事	石塚和子	石塚助産院

(1993. 4)